



体験して、気付いて、考える！

-自分にできることを考える時間に-

9月11日(金)。3年生の総合的な学習の時間で、館林市社会福祉協議会から2名の講師をお招きし、車椅子体験や高齢者体験が行われました。

車椅子体験では、実際に車椅子に触れながら、使い方や介助するときに気を付けることなどを学びました。子どもたちは説明をよく聞き、「どのようにすれば安心して乗ることができるのか」「どんな声のかけ方がよいのか」など、一つ一つ確かめながら体験していました。

また、高齢者体験では、疑似体験ができる装具を身に付け、普段とは異なる見え方や体の動かしにくさなどを体験しました。実際に自分の体を動かしてみることで、説明を聞くだけでは分からなかったことにも気付き、日常生活の中にある様々な場面について考えるきっかけとなりました。

こうした体験から見えてくるのは、「困っている人を助ける」ということだけではありません。相手がどのようなことに困っているのかを考え、まず声をかけたり、相手の気持ちを確かめたりすることも大切です。子どもたちは、体験したことを通して、自分ならどのように関わることができるのかを考えていました。

福祉の現場をよく知る方から話を聞き、実際に見て、触れて、体験するからこそ生まれる気付きがあります。今回の学びが、身近な生活の中で相手の立場を想像し、一人一人を大切にしながら行動することへとつながっていけばと期待しています。

※写真はイメージです

